

炎を誘発している可能性については、ダイオキシン類がもたらす免疫系への影響に関連して論じられている。すなわち、ダイオキシン類によってサブレッサーT細胞が減少し、このためにヘルパーT細胞が相対的に優位になり、免疫活性が高まった状態となり、そのためにアトピー性皮膚炎を引き起こす、というものである。この場合のダイオキシン類は経胎盤的に胎児に移行したものと、母乳を介しての2種類が考えられている。さらに、フランゲンが原因とされるカネミ油症や台湾の油症において皮膚症状（クロルアクネ）が顕著であったことも、ダイオキシン類とアトピー性皮膚炎を関連づける誘因となっているかもしれない。

以上の点をふまえて、今回得られた結果を母乳中のダイオキシン類との観点から検討する。アトピー性皮膚炎の既往は、(1)出生時の母の年齢が30歳以上、(2)第2子以降、の2点が、あまり高いオッズ比ではないもの

の、統計学的に有意な危険因子となっていた。
ダイオキシン類の体内蓄積・排泄のメカニズムから考えると、出生時の母の年齢が高齢であることが危険因子となるのは受け入れることが出来る。しかし、第1子の母乳よりも第2子の母乳のダイオキシン類の濃度が低いことが期待されるため、第2子以降の方が第1子よりもリスクが高いことは、母乳中のダイオキシン類がアトピー性皮膚炎を引き起こすという仮説とは矛盾する。このことは(1)第2子以降の母乳を通じてのダイオキシン類摂取量が第1子と比較して少ない、という仮説が誤っている、(2)母乳がアトピー性皮膚炎のリスクを高くするとしても、ダイオキシン類以外の他の要因によるものである、というふたつの解釈を導くことが出来る。しかし前者は、実態が明らかでない現段階では確定的なことはいえないが、「第2子以降の母乳を通じてのダイオキシン摂取量が第1子と比較して多い」ということになり、常識的に

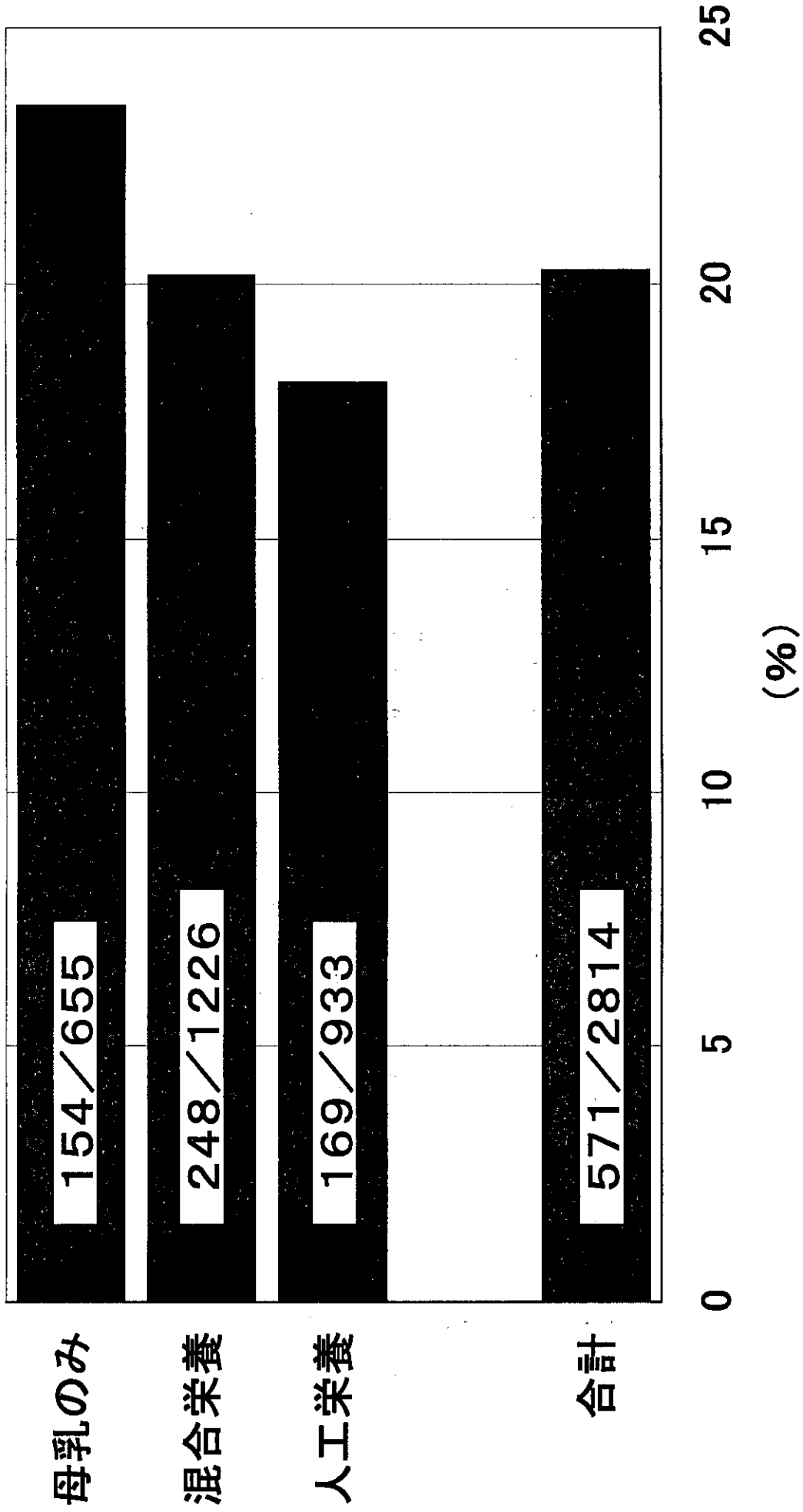
は受け入れがたい^{註)}。本研究においては対象
3歳児が第2子以降の場合の兄弟の乳児期の
栄養方法については情報入手していない。
しかし、今回得られた結果はモデリングによ
り乳児期の栄養方法や出生時の母の年齢を調
整した後のものであることには留意する必要
がある。また、調査対象児に第2子以降であ
り、この児で初めて母が母乳栄養を行った
(すなわち、兄弟の時には人工栄養で、母乳
を通じてのダイオキシン類排泄の機会がなか
った)という者がいる場合には、結果の解釈
に注意を要する。しかしこのような対象児が
混在していても、母乳中のダイオキシン類が
アトピー性皮膚炎の要因であるならば、第1

注) 東京都が1998年11月に公表した資料では、
初産婦60人の母乳中のダイオキシン類の濃度
は脂肪1gあたり平均18.8pg TEQであったのに対
し、経産婦では13.1pg TEQであった。なお、両群
の年齢分布はマッチさせている。

子の方がリスクが高くなるはずであり、この
ような児の存在は観察されたオッズ比を1.0
に近づける（結果を過小評価する）ことはあ
っても、1.0を越えて、今回のような逆の結果
を導き出すことはない。なお、経胎盤的に母
親から胎児に移行するダイオキシン類がアト
ピー性皮膚炎の誘因になっているとしても、
第2子以降は母親の体内の蓄積量は少なくな
っていることが期待され、全く同じ議論が成
立する。

以上のように、乳児期の母乳栄養がアトピ
ー性皮膚炎の危険因子の可能性を示唆したが、
その程度は大きくなく、また、母乳中のダイ
オキシン類がその原因と考えると矛盾する結
果が得られた。仮に母乳がアトピー性皮膚炎
の危険因子であるとしても、ダイオキシン類
以外のメカニズムを検討するべきであろう。

図. 乳児期の栄養方法別アトピー性皮膚炎の既往の割合



不明は除いて計算した

表. アトピー性皮膚炎の既往の危険因子の評価 (オッズ比と95%信頼区間)

	crude	adjusted
性別 (女 / 男)	0.87 (0.72-1.04)	0.86 (0.69-1.07)
出生時の母親の年齢 (30歳以上 / 29歳以下)	1.17 (0.97-1.41)	1.27 (1.01-1.62)
出生順位 (第2子以降 / 第1子)	1.40 (1.16-1.68)	1.32 (1.04-1.67)
母親の既往 (あり / なし)	1.48 (1.22-1.80)	1.26 (0.99-1.60)
花粉症	1.52 (1.03-2.24)	0.94 (0.57-1.53)
喘息	4.16 (3.01-5.76)	3.27 (2.20-4.85)
アトピー性皮膚炎	1.86 (1.44-2.38)	1.34 (0.97-1.84)
アレルギー性鼻炎	1.70 (1.35-2.13)	1.47 (1.12-1.93)
蕁麻疹	1.10 (0.90-1.33)	1.05 (0.83-1.32)
母の就業 (あり / なし)	1.08 (0.89-1.32)	1.00 (0.79-1.27)
ペットの飼育 (あり / なし)	0.98 (0.80-1.20)	1.04 (0.82-1.32)
喫煙者の同居 (あり / なし)	1.39 (1.09-1.78)	1.37 (1.02-1.83)
乳児期の栄養方法	1.15 (0.92-1.42)	1.21 (0.94-1.57)
母乳 / 人工栄養		
混合栄養 / 人工栄養		

2000685

以降は雑誌/図書等に掲載された論文となりますので、
P.7-8の「1. 論文発表」をご参照ください。